

香味豊かな煎茶用新品種‘香駿’

誌名	静岡県茶業試験場研究報告
ISSN	03889114
著者名	中村,順行 永谷,隆行 倉貫,幸一 日高,保 青野,真里子
発行元	静岡県茶業試験場
巻/号	22号
巻号補足	
掲載ページ	p. 23-33
発行年月	1999年9月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



香味豊かな煎茶用新品種 ‘香駿’

中村順行・永谷隆行¹⁾・倉貫幸一²⁾・日高 保³⁾・青野(柴田)真里子⁴⁾

I 緒 言

静岡県内の優良品種茶園面積比率は、1965年の14%から1996年には93.6%に達したが、その大部分は‘やぶきた’で占められている。

この‘やぶきた’の普及は、「品質」「摘採時期」「広域適応性」「収量性」等々が優れていることによる。しかし、あまりにも‘やぶきた’に偏重化しすぎたために、栽培面では病害虫の多発、製造面では摘採期の集中化とそれによって引き起こされる品質の低下や製茶工場の操業率の低下などが指摘されている。さらに、‘やぶきた’の偏重化に伴い、規模拡大の困難性や品種組み合わせによる省力化・効率化・低コスト化が図りにくくなっている。また、県内茶園面積の63%は定植後20年生以上の茶園で占められ、その再改植も基盤整備の推進とともに欠かせない大きな課題となっている^{*}。この他、‘やぶきた’偏重による香味の単一化は、多様化・個性化・差別化・ファッション化の方向に進むと思われる消費者ニーズに合致していないのではないかという不安もある。

このような中、最近では国公立の茶業関係試験研究機関を始め、民間人からも数多くの品種が育成されている。また、当场においても品種の組合せ栽培を押し進め、茶業経営の安定化を図るため、1985年と1992年には晩生種の‘おくひかり’³⁾と‘さわみずか’¹⁾を、1996年には早生種の‘山の息吹’²⁾を育成してきた。

今回は、‘やぶきた’とは明らかに異なる特徴的な香味を持ち、消費者ニーズに合致し、産地銘柄化を目指す地域には最適な初期生育が旺盛で多収型の中生種‘香駿(こうしゅん)’を育成したので紹介する。

II 来歴及び育成経過

‘香駿’は、1970年に‘くらさわ’を母親とし、‘かなやみどり’を父親とした交配実生から選抜したものである。

1971年に採種・は種され、1972~1975年に個体養成及び選抜、1976~1977年に苗床選抜、1978年から1984年にかけて「系統名:70-11-6」として栄養系比較試験が実施された。その結果、芽揃いが優れ、多収で品質優良。特に、香味に特徴を有することから、奨励品種決定本試験において、1987年から本場で生産力と特性検定試験、富士分場と山間地技術センターで地域適応性試験、森町大河内にて炭そ病やもち病などの耐病性検定試験を実施した。

その結果、「70-11-6」は、爽やかで持続性のある香りが強く、収量性は幼木期には極多、成園でも多収を示すとともに、芽数が多く、芽揃いが優れることから、1996年11月に種苗法による品種登録出願が行われ、その後‘香駿’と命名されたものである。

なお、育成には25年を要し、その事業内容と各々の試験の担当者は表1に示すとおりである。

III 特 性 の 概 要

1 形態的特性

樹姿は開張型で、株張りは大きく、枝条の節間長や太さは‘やぶきた’とほぼ同等であるが、着葉角度の鋭いものである。

成葉の形は披針形、先端長は極短く、大きさは中程度。葉厚はやや厚く、葉色は濃緑で、光沢は中程度、内折度及び反転度ともやや大きい。

一番茶芽の芽揃いは良好で、芽数は極めて多く、摘芽長はやや大きい。新葉は濃緑色の長楕円形で、大きさ・厚さ・光沢及び葉質ともに中程度である。

1) 中遠農林事務所

2) 農林水産部研究調整室

3) 静岡県経済連合会

4) 中遠農林事務所

* 静岡県茶業の現状 平成10年 静岡県農政部茶業農産課

表1 育成及び地域適応性試験担当者

事業内容	年 度	育成及び地域適応性試験担当者
交配	1970	日高 保、鈴木幸隆
採種・は種	1971	日高 保、鈴木幸隆
個体養成及び選抜	1972～1975	日高 保
苗床選抜	1976～1977	日高 保、倉貫幸一
栄養系比較試験	1978～1979	倉貫幸一、伊藤英史
	1980～1984	倉貫幸一、中村順行
奨励品種決定本試験 本場	1987	中村順行、小柳津勤
	1988～1989	倉貫幸一、中村順行
	1990～1992	倉貫幸一、青野(柴田)真里子
	1993	倉貫幸一、永谷隆行
	1994～1995	中村順行、永谷隆行
富士分場	1987～1989	日高 保
	1990～1991	小泊重洋
	1992～1994	高橋宇正
	1995	増沢武雄
山間地技術センター	1987	倉貫幸一
	1988～1990	谷 博司
	1991～1994	後藤昇一
	1995	塚本 均

表2 生育と形態的特性

品種名	樹高 ¹⁾ cm	株張り ¹⁾ cm	株張り 樹 高 ×100 %	整 枝 量 ¹⁾ 10a当り 摘採面当り		樹姿	樹勢	枝 条 の 形 質 ²⁾		着葉角度 ²⁾ 度
				kg	g/m ²			節間長 mm	太さ mm	
香 駿	72	159	220	390	358	開 張	中	34.7	2.9	44.2
やぶきた	79	147	186	439	469	やや直	やや強	34.3	2.8	23.0
くらさわ	80	156	195	648	604	やや開	中	----	---	----

1) 調査は、1995年10月。定植9年目。

2) 一番茶芽の生育停止期の枝条中央部で実施。

表3 成葉の特性¹⁾

品種名	形	先端長	大きさ	厚さ	色	光沢	葉面のしわ	成葉の波	内折度	反転度
香 駿	披 針	極短	中	やや厚	濃緑	中	中	中	やや大	やや大
やぶきた	長楕円	極短	やや大	中	緑	やや多	中	やや多	中	中
くらさわ	長楕円	短	大	やや厚	淡緑	やや少	やや多	中	やや小	やや大

1) 各々の調査は、一番茶芽の生育停止期に枝条の中央部で実施。

2 生理・生態的特性

萌芽期は、‘やぶきた’よりもやや早い。摘採期は‘やぶきた’と同じか1日遅い中生種である。樹勢は「中」であるが、収量性は高く‘やぶきた’に比較し、定植後7～9年目の成園でも10a当たりの一番茶で101～134%、年間でも117～141%となる。

耐寒性(赤枯れ)及び耐病性(炭そ病)は、‘やぶきた’に

比較して同等かやや強い。

挿し木発根性は、挿し木当年にはやや劣るものの、2年目には分枝数も多く、地下部の生育も優れ、発根性は良好である。

3 品質特性

一番茶の品質は、‘やぶきた’と同等に優れ、形状は細撚れし易い。香気は、これまでの品種には見られないハー

表4 一番茶芽の特性¹⁾

品種名	芽揃い	芽数	摘芽長 cm	開葉数 枚	百芽重 g	新葉の形質					
						形	大きさ	厚さ	色	光沢	葉質
香 駿	良	59	7.8	3.8	53	長楕円	中	中	濃緑	中	中
やぶきた	中	49	7.7	3.7	51	長楕円	中	中	緑	中	やや軟
くらさわ	中	41	6.5	3.7	61	長楕円	小	中	淡緑	中	やや軟

1) 20×20cmの枠内調査、1990(4年目)～1995(9年目)までの平均

表5 挿し木における生育¹⁾

供試系統	1年目の生育			2年目の生育				
	生存率	新梢長	分枝数	樹高	分枝数	地上部重 ²⁾	根重 ²⁾	木化根数
	%	cm	本	cm	本	g	g	本
香 駿	97	19.8	1.1	61.8	9.8	26.5	9.74	5.4
やぶきた	100	31.0	1.4	72.8	2.0	22.8	3.75	2.8
くらさわ	100	29.9	1.1	74.9	5.0	29.4	4.78	2.6

1) 6月挿し、3月調査。

2) 2年目の地上部重及び根重は新鮮重で示した。

表6 幼木期の生育

品種名	樹 高			株 張 り			せん枝量(/10a)		整枝量(3年目)	
	1年目	2年目	3年目	1年目	2年目	3年目	2年目	3年目	10a当り	摘採面当り
	cm	cm	cm	cm	cm	cm	kg	kg	kg	g/m ²
香 駿	32	40	49	24	36	75	63	195	228	595
やぶきた	32	39	53	18	25	59	16	47	151	528
くらさわ	33	36	43	25	27	70	31	52	128	390

ブ系で、持続性のある爽やかな清涼感を持つ。滋味は調和がとれ、温かななかにも‘やぶきた’とは明らかに異なる香味特性を持つ。

IV 試験成績

1 育成地における成績

1.1 生育と形態的特性

‘香駿’の一般特性は、表2～4に示すとおりである。樹姿は開張型で、樹勢は中、着葉角度が鋭い(表2)。成葉は大きさが中程度で、披針型。葉色は濃緑で、光沢、葉面のしわ及び葉縁の波とも中程度、内折度及び反転度はやや大である(表3)。

一番茶芽の芽揃いは良好で、芽数は極めて多く、摘芽長、開葉数及び百芽重とも‘やぶきた’程度である。新葉は濃緑色の長楕円形で、大きさ、厚さ、光沢及び葉質ともに中である(表4)。

1.2 育苗成績

‘香駿’の挿し木における生育は、表5に示すとおりである。挿し木1年目の生育は‘やぶきた’や‘くらさわ’に比べてやや劣るが、2年目には分枝数が増加し、地上部重も重くなりボリュームある苗となる。また、地下部の生育も優れ、木化根数は多く、根重も‘やぶきた’や‘くらさわ’の2倍程度となる。

1.3 幼木期の生育

‘香駿’の幼木期の樹高は‘やぶきた’程度であるが、株張りは優れ、2年目及び3年目のせん枝量は極めて多かった。また、‘香駿’は、整枝量も多く、幼木期の生育が極めて優れていた(表6)。

1.4 萌芽期及び摘採期

‘香駿’の萌芽期は‘やぶきた’に比較し4日早く、‘くらさわ’に比べ1日遅かった。摘採期は‘やぶきた’よりも1日、‘くらさわ’よりも2日遅く、中生種と認められた(表7)。

表7 萌芽期と摘採期

品種名	萌芽期(月.日)							摘採期(月.日)						
	1990	1991	1992	1993	1994	1995	平均	1990	1991	1992	1993	1994	1995	平均
香 駿	3.29	---	3.26	3.23	4. 7	4. 3	3.30	5. 1	----	5. 4	5. 4	5. 4	5. 4	5. 3
やぶきた	4. 1	---	4. 2	4. 1	4. 7	4. 6	4. 3	4.29	----	5. 2	5. 3	5. 2	5. 4	5. 2
くらさわ	3.25	---	3.26	3.25	4. 4	4. 3	3.29	4.30	----	4.29	5. 1	4.29	5. 4	5. 1

表8 寒害(赤枯れ)の発生状況¹⁾

品種名	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	合計
香 駿	1	-	-	1	-	-	-	-	2	4
やぶきた	2	-	-	1	-	-	1	3	3	10
くらさわ	2	-	-	2	-	-	3	1	4	12

1) 発生程度；- (無)、1 (少)～5 (多)のグレード評価

表9 病害(炭そ病)の発生状況¹⁾

品種名	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	合計
香 駿	1	-	-	1	-	-	3	-	-	5
やぶきた	1	1	1	1	-	-	3	-	1	8
くらさわ	1	1	-	1	-	-	3	1	-	7

1) 発生程度；- (無)、1 (少)～5 (多)のグレード評価

表10 10a当たり生葉収量(kg/10a)

品 種 名	1990(4年目)			1992(6年目)			1993(7年目)			1994(8年目)			1995(9年目)			指数平均		
	一 番 茶	二 番 茶	合 計	一 番 茶	二 番 茶	合 計	一 番 茶	二 番 茶	合 計	一 番 茶	二 番 茶	合 計	一 番 茶	二 番 茶	合 計	一 番 茶	二 番 茶	合 計
香 駿	202	264	466	277	242	519	326	479	805	478	523	1001	472	624	1096	163	205	182
やぶきた	74	60	134	197	176	373	233	317	550	332	354	686	404	426	830	100	100	100
くらさわ	126	95	221	166	183	349	249	405	654	345	526	871	486	411	897	117	127	122

1.5 耐寒性及び耐病性

‘香駿’の育成地における寒害(赤枯れ)の発生状況は、‘やぶきた’や‘くらさわ’に比較して少なかった(表8)。また、炭そ病は1993年を除き、発生は極めて少なかったが、‘やぶきた’や‘くらさわ’と同等かやや少だった(表9)。

1.6 収量性

一番茶期における収量は、‘やぶきた’に比較し、幼木期には著しく多く、成木園(定植後7～9年目)になっても指数平均で10a当たり134%、単位摘採面当たり114%だった。また、定植4年目から5年間の指数平均では初期生育が優れ、株張りも大きくなるため10a当たり収量も163%、単位摘採面当たり132%と多収を示した。

さらに、二番茶は一番茶以上に多収化傾向を示し、年間の合計収量は、‘やぶきた’に比較して著しく多かった

(表10、11)。

1.7 品質

‘香駿’の一番茶品質の合計点は、‘やぶきた’と全く同等だが、小計点(色沢+香氣+滋味)はやや低かった。‘香駿’は、‘やぶきた’に比較して、水色の評点はやや高かったが、香氣や滋味評点は同程度だった。しかしながら、香氣は持続性のある爽やかな清涼感を持ち、滋味は調和がとれ、温かななかにも‘やぶきた’とは明らかに異なる香味特性を有していた。

二番茶品質も、一番茶と同様、‘香駿’は‘やぶきた’と同等かあるいはやや優れる傾向にあり、特に形状は細撚れになり易かった(表12)。

2 県内における地域適応性試験

県内の火山灰地帯に属する富士分場、大井川の中流域

に位置する山間地技術センターにおける地域適応性試験と耐病性を主体とした森町大河内における特性検定試験の結果は、表13～22に示すとおりである。

適応性試験地における幼木期の生育は、表13に示す

とおり、株張りは大きく、育成地の成績と同様に生育が優れていた。また、富士分場では定植後9年目、山間地技術センターでは8年目の‘香駿’の生育は‘やぶきた’に比べ、樹高及び株張りとも優れていた(表14)。

表11 単位摘採面当たり生葉収量(g/m²)

品 種 名	1990(4年目)			1992(6年目)			1993(7年目)			1994(8年目)			1995(9年目)			指数平均		
	一 番 茶	二 番 茶	合 計	一 番 茶	二 番 茶	合 計	一 番 茶	二 番 茶	合 計	一 番 茶	二 番 茶	合 計	一 番 茶	二 番 茶	合 計	一 番 茶	二 番 茶	合 計
香 駿	458	561	1019	737	523	1260	538	819	1357	504	576	1080	446	624	1070	132	157	145
やぶきた	233	200	433	595	446	1041	449	588	1037	426	467	893	430	505	935	100	100	100
くらさわ	326	211	537	489	426	905	437	673	1110	413	606	1019	479	414	893	106	106	106

表12 一・二番茶期における品質¹⁾

品種名	茶期	形 状	色 沢 a	香 気 b	水 色	滋 味 c	小計点 (a+b+c)	合計点
香 駿	一番茶	16.9±1.0	17.1±1.1	17.0±1.0	17.5±0.4	16.8±0.7	50.9±2.0	85.3±2.5
	二番茶	14.2±0.9	13.7±0.9	13.5±0.6	13.9±1.2	13.7±1.4	40.9±2.5	69.0±3.8
やぶきた	一番茶	17.1±0.7	17.6±0.4	16.9±1.1	16.7±1.1	16.7±1.0	51.2±1.6	85.0±2.2
	二番茶	13.5±0.9	13.7±0.6	13.9±1.4	13.7±0.8	14.5±1.1	42.1±2.5	69.3±3.3
くらさわ	一番茶	16.8±1.0	16.6±0.6	15.5±0.8	15.9±1.1	15.4±0.9	47.5±1.7	80.2±3.3
	二番茶	14.1±0.7	13.8±0.8	12.9±0.4	12.6±0.5	12.6±1.9	39.3±2.9	66.0±2.8

1) 一・二番茶期の品質は、1990、1992～1995の5年間の平均±標準偏差。各項目20点満点。

表13 適応性試験地における幼木期の生育

試験地名	品種名	樹 高			株 張 り			せん枝量		整枝量(3年目)	
		1年目	2年目	3年目	1年目	2年目	3年目	2年目	3年目	10a当たり	摘採面当たり
		cm	cm	cm	cm	cm	cm	kg	kg	kg	g/m ²
富士分場	香 駿	29	62	94	21	49	111	---	---	---	---
	やぶきた	34	59	88	19	43	86	---	---	---	---
山 間 地 技 術 セ ン タ ー	香 駿	42	72	92	29	74	118	140	673	1423	1283
	やぶきた	52	91	113	29	75	95	200	467	1068	1274
	くらさわ	52	81	106	35	83	126	212	525	1290	1201

表14 適応性試験地における生育¹⁾

試験地名	品種名	樹高	株張り	株張り 樹 高 ×100	整 枝 量	
					10a当り	摘採面当り
		cm	cm	%	kg	g/m ²
富士分場	香 駿	85	171	201	489	503
	やぶきた	78	145	186	448	543
山 間 地 技 術 セ ン タ ー	香 駿	103	147	144	518	501
	やぶきた	101	130	129	821	929
	くらさわ	102	138	137	694	725

1) 富士分場は1995年(定植9年目)、山間地技術センターは1994年(定植8年目)。

表15 適応性試験地における萌芽期

試験地名	品種名	萌 芽 期(月.日)						
		1990	1991	1992	1993	1994	1995	平均
富士分場	香 駿	----	---	4. 7	4.22	4. 7	4.10	4.12
	やぶきた	----	---	4. 7	4.18	4. 8	4.10	4.11
山 間 地	香 駿	4.12	4.10	4. 4	4. 8	4. 8	4.14	4. 9
	やぶきた	4.15	4.11	4. 7	4.12	4.12	4.16	4.12
技 術 センター	くらさわ	4. 5	4. 9	4. 5	4. 5	4.10	4.14	4. 8

表16 適応性試験地における摘採期

試験地名	品種名	摘 採 期(月.日)						
		1990	1991	1992	1993	1994	1995	平均
富士分場	香 駿	----	---	5. 5	5.19	4.27	5. 5	5. 7
	やぶきた	----	---	5. 5	5.21	4.28	5. 5	5. 7
山 間 地	香 駿	5.10	5. 3	5. 3	5.11	5. 5	5. 8	5. 7
	やぶきた	5.10	5. 4	5. 2	5. 8	5. 5	5.10	5. 7
技 術 センター	くらさわ	5. 6	4.28	5. 1	5. 8	5.13	5.17	5. 4

表17 寒害(赤枯れ)の発生状況¹⁾

試験地名	品種名	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	合計
富士分場	香 駿	-	2	1	1	1	-	1	1	1	8
	やぶきた	-	2	1	1	1	-	1	1	-	7
山間地 技 術	香 駿	-	-	1	2	2	1	2	1	-	9
	やぶきた	-	-	1	1	2	1	1	1	-	7
センター	くらさわ	-	-	1	3	2	1	1	1	-	9
森町大河内	香 駿	-	-	2	-	-	1	1	-	4	8
	やぶきた	-	-	-	2	-	-	1	1	-	4
	くらさわ	1	-	-	2	-	-	1	2	-	6
本川根町須山	香 駿	-	2	-	2	2	1	1	2	-	10
	やぶきた	-	3	-	2	3	2	2	2	1	15

1) 発生程度；- (無)、1 (少)～5 (多)のグレード評価

表18 病害(炭そ病)の発生状況¹⁾

試験地名	品種名	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	合計
富士分場	香 駿	-	-	-	-	-	1	1	1	1	4
	やぶきた	-	-	-	-	-	1	1	1	1	4
山間地 技 術	香 駿	-	1	-	-	-	-	-	-	3	4
	やぶきた	-	2	-	-	1	-	-	1	4	8
センター	くらさわ	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
森町大河内	香 駿	1	2	1	3	3	2	4	3	4	23
	やぶきた	-	3	4	3	3	3	4	2	4	26
	くらさわ	-	3	1	1	1	1	3	1	4	15
本川根町須山	香 駿	1	-	2	1	2	3	3	1	1	14
	やぶきた	3	-	4	2	4	4	4	4	1	26

1) 発生程度；- (無)、1 (少)～5 (多)のグレード評価

萌芽期は、‘やぶきた’に比較して、富士分場で1日遅く、山間地技術センターで3日早かった(表15)。また、摘採期は両試験地とも‘やぶきた’と同日の中生種である(表16)。

寒害及び病害の発生状況は、表17～19に示すとおりである。寒害(赤枯れ)については、‘香駿’は‘やぶきた’に比較して、本川根町須山ではやや発生が少ないものの、その他の試験地ではほぼ同程度に発生した(表17)。また、病害における炭そ病は、富士分場では同程度の発生だったが、その他の試験地では‘やぶきた’に比べ‘香駿’で発生がやや少なかった(表18)。もち病の発生は、‘やぶきた’に比較して‘香駿’は森町大河内ではやや多く、本川根町須山ではやや少なかった(表19)。

‘香駿’の10a当たり収量性は、‘やぶきた’に比較して、富士分場(一番茶；114%、年間合計；140%)及び山間地技術センター(一番茶；120%、年間合計；130%)とも多収を示した(表20)。しかしながら、単位摘採面当たり収量性は、富士分場及び山間地技術センターとも一番茶では‘やぶきた’よりやや低く、年間合計では同程度だった(表21)。

品質は、表22に示すとおり、‘やぶきた’に比較し一番茶期の合計点が富士分場ではやや低く、山間地技術センターではやや高かった。また、両試験地とも、‘香駿’の形状は細撚れとなり特に優れていた。また、水色も優れていた。二番茶品質の合計点は、一番茶期の傾向とは異なり、富士分場で高く、山間地技術センターで低かった。

表19 病害(もち病)の発生状況¹⁾

試験地名	品種名	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	合計
森町大河内	香駿	-	2	3	2	1	1	4	-	1	14
	やぶきた	-	2	1	1	-	-	3	1	1	9
	くらさわ	4	4	5	5	2	1	5	1	2	30
本川根町須山	香駿	-	-	2	-	-	-	3	-	-	5
	やぶきた	3	-	2	-	1	-	1	-	-	7
	くらさわ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

1) 発生程度；- (無)、1 (少)～5 (多)のグレード評価

表20 10a当たり生葉収量(kg/10a)

試験地名	品種名	1990(4) ¹⁾		1991(5)		1992(6)		1993(7)		1994(8)		1995(9)		指数平均		
		一番茶	合計	一番茶	合計	一番茶	合計	一番茶	合計	一番茶	合計	一番茶	合計	一番茶	二番茶	合計
富士分場	香駿	---	---	---	---	413	772	521	960	219	483	546	1227	114	183	140
	やぶきた	---	---	---	---	337	517	402	587	208	378	545	1034	100	100	100
山間地 技術 センター	香駿	223	371	378	874	444	962	402	1053	468	1151	383	858	120	140	130
	やぶきた	192	310	257	536	297	660	333	734	455	916	467	1030	100	100	100
	くらさわ	143	290	190	475	362	911	349	816	333	990	347	648	87	115	100

1) () 内は定植後の年数を示す。以下同様。

表21 単位摘採面当たり生葉収量(g/m²)

試験地名	品種名	1990(4)		1991(5)		1992(6)		1993(7)		1994(8)		1995(9)		指数平均		
		一番茶	合計	一番茶	合計	一番茶	合計	一番茶	合計	一番茶	合計	一番茶	合計	一番茶	二番茶	合計
富士分場	香駿	---	---	---	---	415	772	465	860	205	449	528	1203	81	133	101
	やぶきた	---	---	---	---	531	813	529	762	257	458	650	1241	100	100	100
山間地 技術 センター	香駿	395	629	489	1068	463	1006	424	1076	469	1105	352	822	96	114	105
	やぶきた	437	682	428	849	398	854	405	884	553	1066	525	1156	100	100	100
	くらさわ	247	479	252	626	432	1063	387	891	371	1062	364	686	76	102	88

表22 一・二番茶期における品質

試験地名	品種名	茶期	形状	色沢 a	香氣 b	水色	滋味 c	小計点 (a+b+c)	合計点
富士分場	香駿	一番茶	15.1±1.4	14.6±0.4	13.5±1.2	14.8±1.3	14.5±1.7	42.6±3.0	72.5±5.7
		二番茶	11.8±1.3	11.0±0.6	10.6±0.5	10.4±0.7	11.1±0.7	32.8±1.1	54.9±2.4
	やぶきた	一番茶	13.9±1.8	14.9±1.3	15.0±1.7	14.7±1.4	14.7±1.8	44.6±4.4	73.2±7.4
		二番茶	10.6±1.1	10.3±0.8	10.3±0.9	10.5±1.5	10.8±1.7	31.3±2.9	52.5±5.3
山間地 技術 センター	香駿	一番茶	17.7±0.4	17.3±1.2	18.2±0.5	18.2±0.4	17.9±0.6	53.4±1.5	89.3±0.9
		二番茶	12.9±0.9	13.3±1.5	13.2±1.4	12.2±0.7	12.1±0.6	38.6±3.0	63.7±4.1
	やぶきた	一番茶	16.6±1.0	17.2±0.7	18.1±0.2	17.6±0.8	18.3±0.4	53.6±0.4	87.8±1.0
		二番茶	12.2±0.5	12.9±0.7	13.1±0.8	12.9±1.2	13.0±1.2	39.1±2.3	64.2±3.6
	くらさわ	一番茶	17.6±0.5	16.7±1.1	16.6±0.5	17.7±0.7	16.1±0.7	49.4±0.7	84.7±0.8
		二番茶	11.7±0.6	11.6±0.7	11.6±0.4	11.7±0.7	11.2±0.4	34.3±1.4	57.7±1.3

1) 一・二番茶期の品質について、富士分場では1994～1997の4年間、山間地技術センターでは1990～1995の6年間の平均±標準偏差。各項目20点満点。

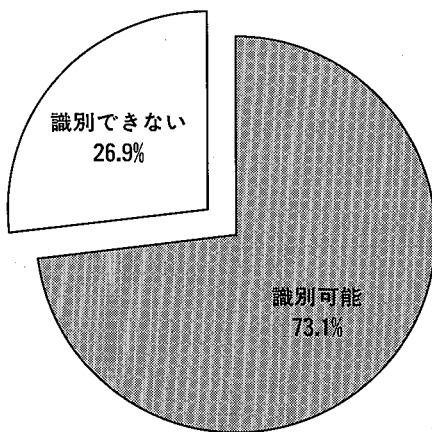


図1 3点識別法による‘香駿’と‘やぶきた’の識別の可否

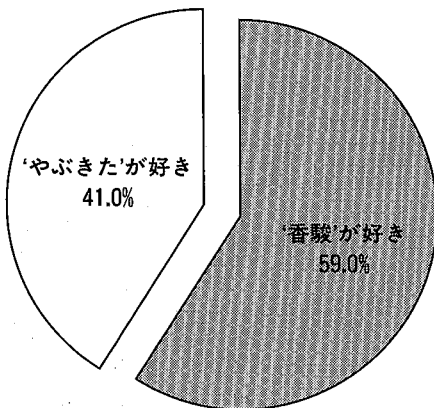


図2 識別可能な回答者の好みの品種

V ‘香駿’の嗜好調査

‘香駿’と‘やぶきた’を供試し、1996年に開催された全国ちゃ祭りオープニングイベント会場で嗜好アンケート調査を実施した。回答者は、200名弱で、男女の比率はほぼ50%だった。年齢は、10代から60代まで幅広く、中心は20～50代であった。なお、回答者の大部分は、毎日3杯以上のお茶を飲み、お茶を飲み慣れた階層と考えられた。

嗜好調査は、‘香駿’と‘やぶきた’を用いた3点識別法により実施したが、両者の違いを正確に把握できた人は73%と多く、‘香駿’は‘やぶきた’とは明らかに異なる香味を有することが認められた(図1)。また、両品種の違いを認知できた回答者の60%程度は‘やぶきた’より‘香駿’を好み(図2)、その理由として「香りが良い」「旨味がある」「味が濃い」「甘味がある」「渋味がある」等の評価をした(図3)。

これらのことから、‘香駿’はお茶を飲み慣れた階層からは明らかに‘やぶきた’とは異なる香味を持つ品種として認知され、その香味が受け入れられる要素は十分にあると考えられた。

VI 普及対象地帯と栽培製造上の留意点

1 普及対象地帯

収量性が高く、耐寒性の強いことから、静岡県内の全域に適する。香味に特徴があり、中生種のため、‘やぶきた’との品種組み合わせ栽培よりもむしろ品質を前面に打ち出した産地銘柄化を目指す地域に最適である。

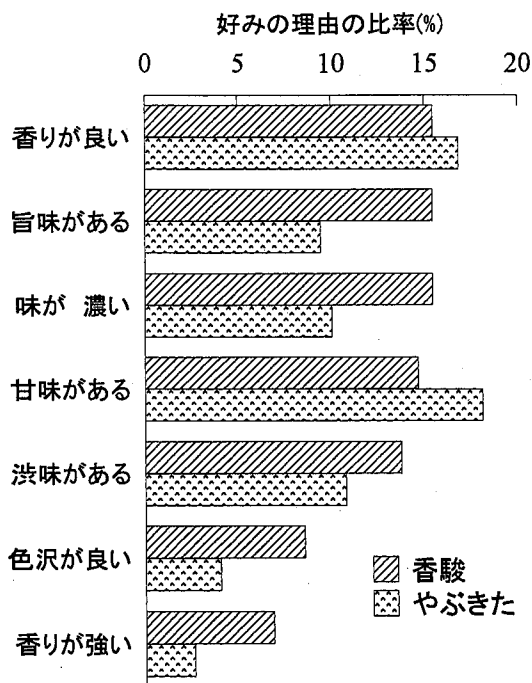


図3 ‘香駿’または‘やぶきた’を好んだ理由

2 栽培・製造上の留意点

樹勢が旺盛で、樹姿が開張型のため、幼木期の仕立ては容易である。しかしながら、成園化するに従い芽数型の傾向が強まるため、更新などを計画的に行い多収性の維持に努める必要がある。

Ⅶ 命名の由来

‘香駿’は、駿河の国(現、静岡県)で育成され、‘やぶきた’とは異なる特徴ある香りが消費者ニーズに合致し、香味にポイントをおいたブランド品になることを意味し、命名された。

Ⅷ ま と め

‘香駿’は1970年に‘くらさわ’と‘かなやみどり’を交配し、25年間に要し1995年に育成されたものである。

萌芽期は‘やぶきた’よりやや早い。摘採期は同時期の中生種である。樹姿は開張型、樹勢は中であるが、収量性は高い。また、摘採期の芽揃いも優れ、荒茶品質の形状も細撚れし易く、香りが強く爽やかで持続性のある香味を示し、‘やぶきた’とは明らかに異なる香味特性を持つ。

そのため、この特徴的な香味を活かし、産地銘柄化を目指す地域には最適な品種と考えられる。

なお、本品種の育成に際し、育成試験に協力を頂いた村松実氏(現、榛原町切山)及び杉沢忠義氏、品質調査に指導と協力を頂いた高橋宇正研究主幹に深く感謝いたします。

Ⅸ 引 用 文 献

- 1) 倉貫幸一・柴田真里子・中村順行・日高保(1994)；煎茶用新晩生品種‘さわみずか’。静岡茶試研報 18: 1-11.
- 2) 倉貫幸一・青野(柴田)真里子・永谷隆行・中村順行・日高保(1997)；煎茶用の新しい早生品種‘山の息吹’(やまのいぶき)。静岡茶試研報 21:1-11.
- 3) 中村順行・松浦健雄・日高保・倉貫幸一・大石貞男・伊藤英史(1986)；煎茶用新品種‘おくひかり’。静岡茶試研報 12:23-32.

'Koushun' a Newly Registered Tea Cultivar with Superior Aroma

Yoriyuki NAKAMURA, Takayuki NAGATANI, Yukikazu KURANUKI,
Tamotsu HIDAKA and Mariko AONO (SHIBATA)

Summary

A new tea cultivar named 'Koushun' is a clonal cultivar suitable for green tea.

'Koushun' was selected from seedlings derived from the cross of 'Kurasawa' × 'Kanayamidori' in 1970 and it was selected by individual selection in 1975. It was designated as [70-11-6] (strain name) in 1978 and subjected to a clonal test from 1978 to 1984. It was subsequently evaluated for local adaptability and for a specific characteristics from 1987 to 1995.

As a result of the test, 'Koushun' is a medium budding cultivar. The shape of the plant is a spread type and the growth habit is fairly vigorous. The flush shoots show bud number type and flush leaves are long and elliptic in shape and dark green in color. Cutting of this cultivar is very easily and show good growth after rooting. 'Koushun' is more resistant to cold damage in winter and tea anthracnose than that of 'Yabukita'. The yield of green leaves of this cultivar is higher than that of 'Yabukita'. 'Koushun' has a slender twist of crude tea and its cup quality is excellent, especially the aroma is strong and rich.

As 'Koushun' is the superior green tea, it is suitable for cultivation in areas that aim at making brand of tea, because of the aroma is strong and rich, but it is very different from 'Yabukita'.



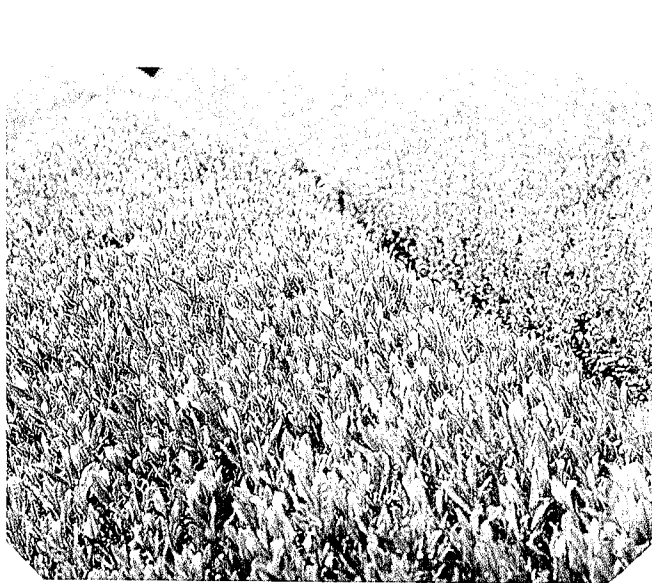
'香駿'の一番茶新芽



幼木時の'香駿'



'香駿'一番茶期の芽立ち状況



'香駿'一番茶期の園相